

◇ 学校通信 ◇

令和 8 年 6 月号

桶川市立加納中学校

# 加納中だより

<http://www.okegawakanou-jh.ed.jp/netc/htdocs/>

《校訓》自主の風

《学校教育目標》

きらめく心、光る汗

生徒数 347名

## つながりを創り、未来を拓く「あいさつ」の力

校長 齋藤 光

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

現在、生徒たちは体育祭に向け、学年や学級で力を合わせながら練習や準備に励んでいます。校庭から聞こえてくる元気な声や、仲間と協力しながら真剣に取り組む姿に、学校全体の活気を感じる毎日です。

去る5月12日(火)、小野克典桶川市長が朝のあいさつ運動にお越しくださいました。その日は市長と並んで私も生徒の登校の様子を見守ることとなりました。校内ですれ違った時や下校時には元気にあいさつができる加納中生ですが、「今日はどうなのだろう」と少し緊張しながら生徒たちの到着を待ちました。すると、その心配を吹き飛ばすように、多くの生徒がしっかりとしたあいさつを交わしながら昇降口へと入っていきました。その姿に、市長からも温かいお言葉をいただきました。

人は、気持ちの良いあいさつを受けると、それだけで心が温かくなり、その人のことを「応援したい」「力になりたい」という気持ちになるものです。生徒たちが地域の中で交わしているあいさつは、学校・家庭・地域を温かな絆で結ぶ架け橋となっています。日頃より子どもたちを見守り、あいさつを交わしながら育ててくださっている保護者・地域の皆様に、改めて感謝申し上げます。

これからは AI をはじめとするテクノロジーがさらに発展する社会になります。しかし、どのように時代が変化しても、人と人との関わり大切さは容易に変わるものではありません。自ら進んであいさつができる人は、周囲から信頼され、豊かな人間関係を築いていくことができます。あいさつは、社会を生き抜くための大切な力であり、その人の人柄を映し出す鏡のようなものだと思います。

今、本校の生徒たちが当たり前のように行っているあいさつは、これからの人生を支える大きな財産になると信じています。



### 【生徒の皆さんへ】

皆さんがいつも交わしている「あいさつ」は本当に立派です。その一言で、先生たちも地域の皆さんも明るい気持ちになり、「もっとみんなを応援したい!」という元気をもらっています。

今、皆さんに身につけている「あいさつ」の習慣は、社会に出ていく上でとても大切なものです。あいさつができる人は、どんな時代でも、どこに行っても信頼され、大切にされます。

今の素晴らしい習慣に誇りを持って、これからも学校や地域で出会う多くの人々と、気持ちのよいあいさつを交わせる人になってください。

